

活動レポート (2022年11月13日)

## ねんりんピック神奈川県 真鶴町でオリエンテーリング大会

ねんりんピックは2020年2021年と岐阜県で開催予定でしたが、新型コロナの影響により中止となりました。今回、3年ぶり神奈川県で開催されましたので、それまでの経過など含めて参加した3人から報告します。

今年に入り、選手選考を進めてきました。岐阜県大会では2チーム編成出来ましたが、選手も60歳以上ということもあり、高齢化が進んでいることや都合が合わないなどあり、結果として鹿野さん、橋本さん、牧ヶ野が参加することになりました。

大会までには、手続き関係の会議やメールでの書類提出などがあり、手間も多いものでした。オリエンティアは全国各地の大会に自分自身で宿をとり移動手段も選びと自律していますが、他の団体ではそうも行かないのか、手取り足取りのお世話や厚労省が所管し自治体が関与していることもあり形式的な所もあり簡略化できないようでした。

10月8日には、総勢196人の岐阜県選手団の結団式があり、牧ヶ野がオリエンテーリング参加者を代表して決意表明してきました。大会直前から直後までコロナ禍の中での開催と言うこともあり大会前後2週間の体温測定や抗原検査キットによる検査などを実施する必要がありました



11月11日に岐阜県選手団として新幹線で横浜入りし、12日には皇族をお迎えしての開会式などのセレモニーが行われました。

11月13日真鶴町での大会は、当初、山の中に入るものと考えていましたが、スプリントミドルの形式でスプリント図式を利用しつつ距離は、SLMのコースで2.5キロから4.5キロの街中で開催されま

した。全国、県・政令市から代表22チーム62人がエントリーしました。併設大会については、真鶴町で、それも街中で開催することが今後あるかわからないこともあり、限定100人の募集が一気に埋まったようです。



大会の結果としては、岐阜県チームは第4位の成績となりました。

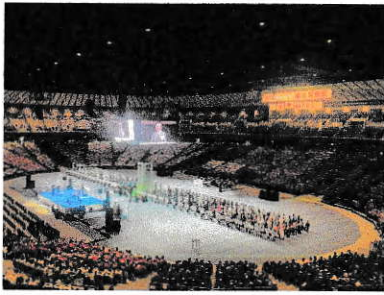
所属	L (名前, 得点)	M (名前, 得点)	S (名前, 得点)	総得点	順位
横浜市	下山 敬史(19)	種村 茂夫(18)	五十嵐 則仁(20)	57	1
神奈川県	和田 美千代(20)	高橋 明美(16)	波邊 英夫(19)	55 (45)	2 93:03
兵庫県	谷垣 宣孝(18)	出田 洋(20)	永田 実(17)	55 (65)	2 30:01
岐阜県	牧ヶ野 敬明(16)	橋本 八州馬(17)	鹿野 勤次(21)	54	4
静岡県	小林 孝一(14)	馬道 和洋(16)	鈴木 季彦(18)	48	5
岡山県	中野 浩(17)	湯浅 日出雄(13)	湯浅 久美子(14)	44	6
愛知県	新家 秀男(10)	小幡 昭次(15)	長瀬 朋子(18)	43	7
岩手県	菅原 健一(16)	三澤 健男(9)	高橋 千代司(16)	41	8
和歌山県	橋見 耕介(12)	坂本 忠(19)	斉藤 久雄(10)	41	8
徳島県	松本 和美(14)	織田 稔(12)	板東 光彦(15)	41	8
茨城県	三宅 互(13)	黒羽 和之(15)	飯島 敬一(12)	40	11
川崎市	茅野 耕治(20)	伊藤 清(13)	高橋 厚(0)	33	12
愛媛県	谷口 直夫(13)	徳野 利幸(0)	伊藤 好信(14)	27	13
広島市	高田 征伺(0)	益成 典子(12)	高田 幸江(10)	22	14
相模原市	永野 肇次(0)	松本 紀代子(0)	塩田 信子(16)	16	15
群馬県	松島 謙一(0)	津金沢 良男(14)	小嶋 慎一(0)	14	16
広島県			神鹿 文恵(12)	12	17
山口県	福田 良雄(0)	弘中 進(0)	磯村 富也(10)	10	18
福岡市	久坂 勤二(0)	松田 明男(0)	野村 知子(10)	10	18
山梨県	水上 周治(0)	内藤 信司(0)	山口 昇(8)	8	20
高知県	西村 善則(0)	田村 勇勝(0)	永田 伸雄(0)	0	21
名古屋市			中島 和彦(0)	0	21

ねんりんピックでオリエンテーリングが実施される2025年には下呂市で開催する予定です。全国から多くの選手を迎えて大会が出来ますよう、皆様のご協力をお願いいたします。(牧ヶ野)

### ねんりんピック神奈川に出場して(橋本)

正直なところ11月13日(日)のレースのために2泊3日を費やすことが時間的にも金銭的にももったいないという感覚があった。いざ参加してみると2泊3日をかかなり楽しんだ自分がいた。

1つ目は、神奈川という利便性の高い土地での開催であったこと。11日昼過ぎ名古屋集合、新幹線で横浜へ。横浜の移動は地下鉄と徒歩というような具合で前回と比べて格段に楽であった。



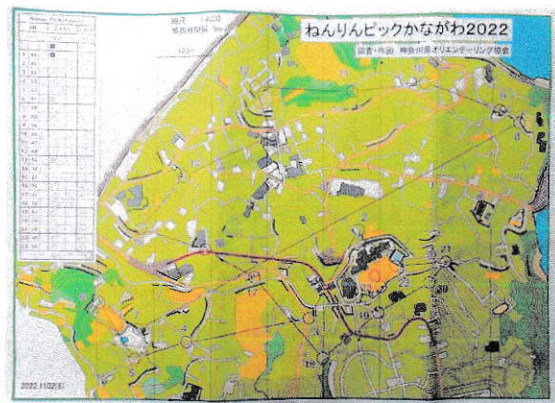
2つ目は総合開会式。横浜ア

リーナで開催されたことで、宿から地下鉄・徒歩で移動、野外で待機の時間も短く入場行進なども代表者5人のみの行進ということであったのでゆったりと観覧席で見ることができた。音響も野外に比べると格段に良く、会場全体を見渡すことができる。大型ディスプレイが中央天井に設置され、細部も見ることができる。ということで総合開会式を堪能することができた。さすがは神奈川だなと感心させられる演出と多彩な出演者で楽しませてもらった。

進行役は、榊原郁恵。かつてのアイドルも今はシニア。我々と同世代で嬉しくなった。映像出演で神奈川を紹介したのは、厚木出身の現代のアイドル(もう立派な女優へと脱皮しているが)川栄李奈。ダンスの指導はラッキー池田。いつの間にか会場の雰囲気にとっぷり浸かっていた。神奈川総合高等学校舞台芸術科、社会福祉法人進和学園、横須賀シニア劇団の皆さんのダンスパフォーマンスにも感銘を受けた。そして、特別応援団の草笛光子が圧倒的存在感で盛り上げてくれた。そこだけ一段と光り輝くようでもうこういうのがオーラを放つということだと実感した。シニアの我々が応援されている。自分たちももっと輝きたいと翌日の競技に向けて奮い立つような高揚感を感じた。三笠宮彬子さまのご挨拶も祖父である三笠宮さまが100歳までスポーツやダンスなど様々なものに食欲にチャレンジしておられたエピソードをご挨拶の中で披露されたが、自分たちもそうありたいとしみじみ思った。

3つ目はオリエンテーリングの競技である。会場は、伊豆半島の付け根の真鶴町である。漁港から背後の高台に向かってかなりの上り坂。家屋が密集す

るところである。ここでオリエンテーリングができるのだろうか当初は疑問だったが、等高線に沿って車が走れる道が通っている。そしてそれに直行するように路地がたくさん通っている。これを活用してスプリント的なコースが用意されていた。地図も視認性を重視するために建物常時立ち入り禁止のオレンジ色で表記するなど工夫がなされていた。初めは、少し戸惑ったが、めったに走れない街中のコースを堪能できた。



(上の地図は併設大会のもの)

ねんりんピックには都道府県対抗という縛りがある。本来なら男女別年齢別のクラス分けで競うことができれば良いのだが、参加チームが少ない、ほとんどオリエンテーリング初心者レベルの方も参加するところもあるという現状では難しい。前回の和歌山大会では、コースは、年齢、性別、技術力に関わらず全員同一のコースを走った。今回は、距離が違う3つのコースをチーム3人が分担して走る。75歳以上と女子にはボーナスポイントを与えるという方式で行われた。街中でスプリントならば、タイムは遅くなくても経験が少ない人でも完走できる可能性が高まるので、なかなか良いアイデアだと感心した。ただ、ボーナスポイントの配点については、改善の余地がありそうである。我が岐阜県チームも1点差で静岡県に破れ4位となった。向こうは女子を2人揃えてきたのでボーナスポイントの影響は大きかった。2025年のねんりんピックぎふではどのような方式にするのが課題である。今回の経験をぎふ大会に生かして楽しい大会を目指したい。

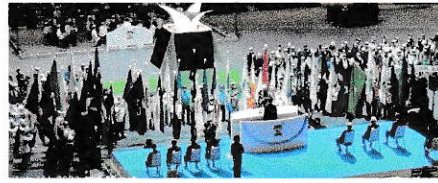
## ねんりんピック神奈川に出場して(鹿野)

### 国内最高レベルの「街中OL」を満喫

競技は11/13、漁業が盛んな真鶴町で行われた。会場の真鶴小学校(標高60m)がスタート・ゴールで、街中トレインは高低差が120mを超える傾斜地である。階段、未舗装の小道、民家横の狭い道などもあり、タフなコースといえる。国内では最高レベルのトレインで、海外のスプリント競技に迫る、素晴らしいコースを楽しめた。

私はS(2.1km、↑60m)に参加したものの、苦手なスプリントのためさんざんな結果に終わった。迷走ルート・記録・反省などを図のとおり。本来は、3人の総合成績で入賞を狙いたかったが、あと一步に終わった。なお、L(4.6km ↑180m)や併設のML(5.4km ↑210m)はスプリントの域をはるかに超えている。このコースを走りたい。

### 競技意欲と高齢者に元気をつけた総合開会式で予想外の感動

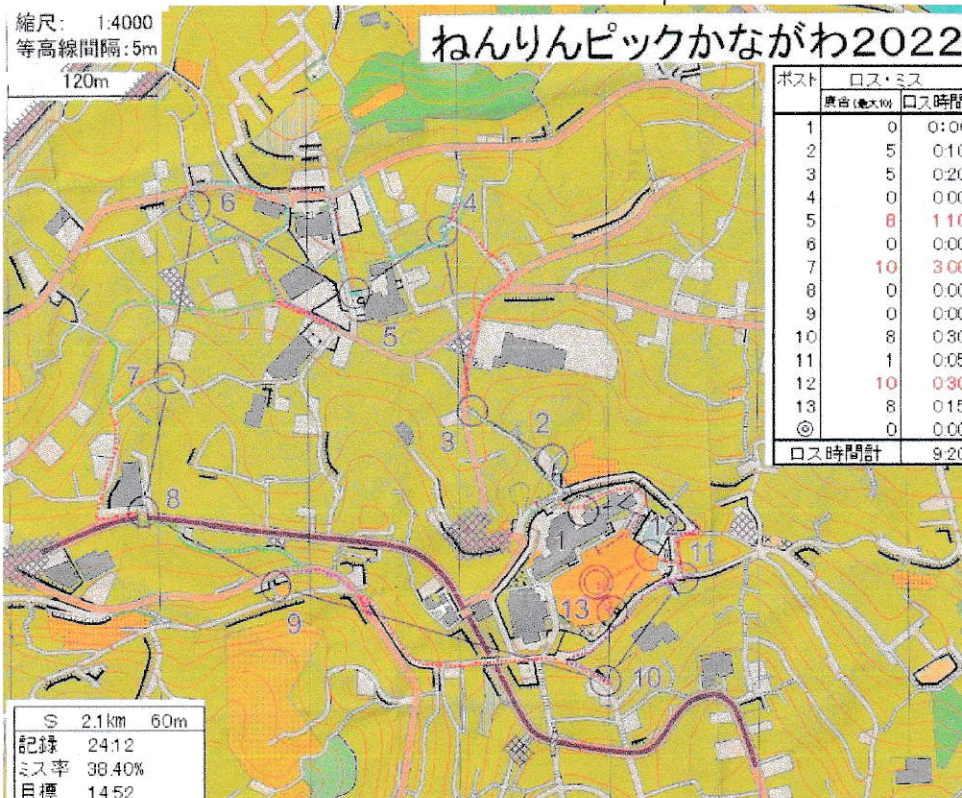


選手宣誓  
(配信動画より)



シニアによるダンス  
(配信動画より)

11/12 総合開会式はアトラクションを含めて2時間を超えた。この類の開会式は興味がなかったが、横浜アリーナの音響と映像が効果を高め、式を盛り上げた。予想以上に素晴らしい開会式で、感動があった。あいさつ等にも素晴らしい言葉が含まれ、高齢でのスポーツに意欲がわき、元気づけられた。とくに、宮様女王殿下(来賓)、スポーツ庁長官(共催)、特別応援団長(草笛さん)には心に響く話があった。



次の2点を確認できた。

- 高齢になってこそ新しい事に挑戦することが大切。
- スポーツを続けることが、健康・体力・精神・生き方・日常生活・ボケ対策・・・にきわめて有効。